

people of Hirado

Kiyoko Ayaka

綾香清子さん
(漁師食堂「母々の手」代表)

「私たちは、平戸の豊かな自然の恩恵を受けて生かされています」

この食堂を開いてから、市内はもとより、県外からもたくさんのお客様が足を運んでくれるようになりました。平戸の魚はおいしいと思っていましたが、観光客のみさんの表情や言葉などから、平戸の魚に自信を持つことができました。私たちはこの海の恩恵を受けて生かされているといっても過言ではありません。平戸の豊かな自然(海)がお客様を呼んできているのです。平戸は、魚はもちろん、アスパラガスやバレイショ、イチゴなどの農産物も豊富です。何を食べても安心・安全ですからもっと自信を持つべきだと思います。第1次産業なくして第2次・第3次産業はあり得ません。平戸の豊かな自然に感謝し、これからも自然を大切に守っていきたいと思います。



PROFILE



綾香清子(53歳)
/主師町

平成20年4月に地域の女性グループで漁師食堂「母々の手」をオープン。同地区で獲れた新鮮な魚で観光客のみさんを温かくもてなし、平戸の魚の良さをアピールしている。

people of Hirado

Satoshi Nishi

西 聡さん
(農家・市青年農業者連絡協議会会員)

「たくさんの仲間にも恵まれたから、今の自分があると思います」

農家の子に育ち、幼いころから両親の近くで農業を身近に感じていたこともあり、当たり前のように農家になりました。北松農業高校、県立農業大学校を経て、20歳からミニトマトの栽培を中心に約30品目の野菜を手がけています。現在は、仕事にも慣れてきて、「食の安心・安全、顔の見える農業」に心がけ、試行錯誤を重ねながら味の追求に没頭しています。農業は強制されてできるような仕事でないので、楽しむことが必要だと思います。青年農業者連絡協議会などの活動を通して、たくさんの仲間と出会い、たくさんの刺激を受けました。夢を語るができなかった自分も、この出会いを通じて夢を持つことができました。これからも仲間と共に切磋琢磨しながらこの平戸の地で夢を追い求めていきたいです。



PROFILE



西 聡さん(26歳)
/大野町

農家である両親とともにミニトマトの栽培などを中心に約30品目の農作物を手がける。市青年農業者連絡協議会などにも属し、平戸の未来を担う若手農業者として活躍中

Special Edition 「このまちが好きだから。」

豊かな自然が育む平戸の息吹

海と大地に抱かれて



豊かな自然に恵まれ、
西海国立公園に指定されるなど
美しい自然環境に恵まれた「平戸」。
先人たちから受け継いだ
この恵まれたすばらしい大自然は平戸の誇るべき財産です。

この海と島、そして大地の恵みである
新鮮で豊富な農林水産物は、
市民のだれもが地域の自慢として認識している「宝」です。

この自然を基とした農林水産業は、
これまで平戸市の基幹産業として、
多様な雇用の場を創出し、生活の向上に大きく寄与してきました。
そして、これからも私たちのまちに
活力を生み出す源泉として
次世代に保全・継承していかなければなりません。

自然と共生したまち「平戸」。
私たちは、これからもこの大自然とともに歩んでいきます。